

富山県を「電力」で元気に 初代 金岡 又左衛門

薬種商の主人で政治家 北陸初の水力発電所を建設 富山に初めて電灯をともす

1864 (文久4) 年1月22日—1929 (昭和4) 年6月10日



15歳で薬種商の主人に

金岡又左衛門は、漢方薬などを扱う大きな薬種商の長男で幼名を米太郎といました。15歳で父を亡くし、又左衛門と改名して家業を継ぎました。母は当主となっ

た又左衛門に「誠の人として正しい道を進みなさい」と説きました。この教えを胸に又左衛門は商売に励み、金岡家はますます栄えました。



又左衛門が生まれた家。現在の富山県民会館分館金岡邸 (『金岡又左衛門翁』より)

豊富な水を発電に活用したい

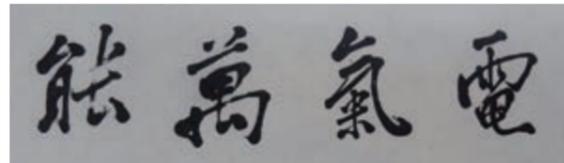
又左衛門は28歳で県議会議員になり、30歳で衆議院議員に当選しました。

1887 (明治20) 年、日本で初めての電灯が東京でともり、続い

て神戸、大阪などにも広がりました。これらの電灯には火力発電による電気が使われていました。富山の密田孝吉という若者が電気に注目し、又左衛門に富山で火力による発電事業を始めようと提案しました。しかし、又左衛門は治水という点からも川の急流を利用した水力

発電がよいと考えました。富山の町々に電灯をともすため、2人で水力発電に適した場所を探すことにしました。

又左衛門は規模の小さい発電から始めることにし、上新川郡塩村(現富山市)にある大久保用水に目を付けました。この用水は神通川から水を引いているので水量が豊富なうえ、何よりも富山市に近いことが魅力でした。



又左衛門が書いた書「電氣萬能」(『金岡又左衛門翁』より)

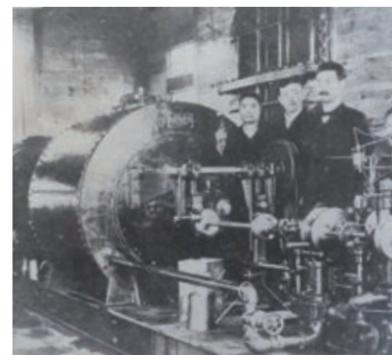
電灯から工業用へ事業拡大

当時、「電氣」を理解する人は少なく、地主から用水を使わせてもらうのに大変苦労しました。その後、用水が使えることになり、又左衛門が社長、孝吉が支配人に就いて富山電灯(現北陸電力)を設立しました。

北陸で初の水力発電所大久保発電所が完成したのは1899 (明治32) 年3月7日でした。火力発電が主だった当時の日本では、水力

発電所は最新技術を誇るものでした。4月1日には、富山市内への送電が始まり、中心部で約1000世帯に電灯がともりました。

ところが、この年の8月12日、富山の市街地の3分の2を焼く大火がありました。富山電灯本日も全焼したほか、配線のほとんどが焼け落ちました。大きな損害となりましたが、又左衛門らのがんばりによって、5年後には本社を再建しました。



大久保発電所で北陸最初の発電機を視察する又左衛門(右) (金岡邸提供)



富山県に多くの工場を呼ぶ

又左衛門は1911 (明治44) 年、神通川の猪谷を水源として北陸初の大型水力発電所の庵谷第一発電所を完成させ、さらに庵谷第二発電所の建設を計画しました。

庵谷第一発電所の電力を売るのに苦労していた重役たちは大反対です。しかし、又左衛門は「十分な電気を準備しておかないと、新しい工場は来ない」と押し切りました。そうして、1915 (大正4) 年に第二発電所の建設に着手しました。

1914 (大正3) 年から始まった第一次世界大戦ごろから、日本では工業化が進みました。ところが、富山県に新しい工場を建てようという動きがありません。又左衛門は氷見市出身で「セメント王

と呼ばれた浅野総一郎(→32ページ)を東京に訪ねて相談しました。すると、日本鋼管(現JFEスチール)の社長を紹介されました。交渉の結果、伏木富山港の近くに日本鋼管の新工場が建つことが決まりました。

これがきっかけで、富山県は電気が安く、工場建設に適していることが全国に知られるようになりました。

北陸地方の電源開発は、又左衛門の後継者となった山田昌作によってさらに進められ、富山県に工場があいついで進出していったのです。



庵谷第一発電所 (『金岡又左衛門翁』より)

夢や志をかなえたポイント

- ・親の教えを守る
- ・先を読んで早めに手を打つ
- ・教育のために力を貸す

1864 (文久4)	0歳
新川郡新庄の薬種商に生まれる	
1879 (明治12)	15歳
家業を継ぐ	
1886 (明治19)	22歳
若い人のために育英事業を始める	
1892 (明治25)	28歳
県議会議員になる	
1894 (明治27)	30歳
衆議院議員になる	
1897 (明治30)	33歳
富山電灯を設立	
1909 (明治42)	45歳
富山電灯の社名を富山電気とする	
庵谷第一発電所を建設	
1922 (大正11)	58歳
常願寺川治水同盟会を結成し会長になる	
1929 (昭和4)	65歳
富山電気の社名を日本海電気とする	
亡くなる	

コラム 優れた才能をもつ 青年の勉学を支援

又左衛門は22歳のときから、貧しい家の青年たちが大学に進んで勉強できるようにと、お金を送っていました。

このことを又左衛門は死ぬまで秘密にしていた、葬儀で一部が明らかになった程度です。

又左衛門から奨学金を受け取っていた人は、学者や政界、財界で活躍した人など100人を下りません。



晩年の又左衛門 (『金岡又左衛門翁』より)

豆知識 富山県で初めてともった電灯は、密田孝吉が東京から技術を持ち込んだアーク灯でした。当時はまだ電球がなく、電極間の放電の火花を光源とするアーク灯が照明に利用されました。